



本のおはなし

NO. 16

July 2018



鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。

川上和人著 新潮社

本校の悴田匡一先生からオススメされた本です。題名がまず、おもしろそう！中身はもっと面白い！そういえば、鳥の図鑑で川上和人氏の名前を見たことがありました。鳥類学者という普段あまり脚光を浴びない地味な人達が人知れず苦勞して鳥の生態を調べてくれたおかげで、私達が普段見かける鳥や、まったく見かけることのない鳥のことを知ることができるのですね。

とはいえ、まあ、ほんとに面白い話げてんこ盛り。読んでるとひとりで笑ってしまい、だれかに教えてあげたくなります。ページをめくる都度、たくさんエピソードが抜群のユーモアのセンスで披露されます。しかも知識量がすごいのでとてもためになります。鳥類学者だけにしておくのはもったいない。近くで講演会があったらぜひ行ってみたいと思える一冊です。かなりむずかしいので高学年向きです。

(森永チョコボールのキョロちゃんの生態についての考察も熱く語っているんで、おうちの方々も興味があったらぜひ借りてみてください。)





本のおはなし

NO. 15
June 2018



いぬ こんぴら狗

今井恭子著 いぬんこ画 くもん出版

今年度(平成30年度)の読書感想文課題図書の一冊です。江戸時代、庶民は今のよう気軽に旅にでることはできませんでした。唯一、京の東本願寺参り、三重の伊勢参りそして讃岐(今の香川県)の金毘羅参りだけが許されたそうです。こんぴら狗というのは、病気や事情があって行けない飼い主に代わって、犬がはるばる旅をしてお札をもらってくるという、実際にあったユニークな風習です。もちろん、犬が自主的に旅に行くことはできないので、首に「こんぴら参り」と書いた札、飼い主の住所、餌代、初穂料(お宮へ納めるお金)を付けて、信頼できる人に連れて行ってもらうのです。ムツキという名の犬は飼い主・弥生の病気の治癒祈願のために、懇意にしているご隠居様と一緒に出掛けます。こんぴら狗は当時もめずらしがられ、有難がられ、行く先々で親切にしてもらえます。ところが途中で、頼みのご隠居様が病気で亡くなってしまい、ムツキは訳も分からないながらも、「こんぴら参り」の札のおかげで、さまざまな人達によって旅を続けることに…。

往復約 1,340km の大冒険物語です。江戸時代のさまざまな人達の人情や人生模様も垣間見られる興味深くおもしろい本です。





本のおはなし

NO. 14
May 2018

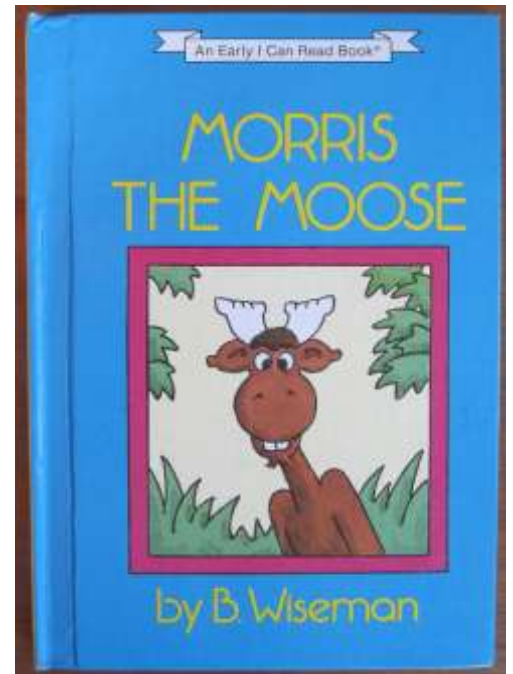


モーリス ザ ムース
MORRIS THE MOOSE

by B.Wiseman Harper & Row

(ムースのモーリス)

ある日、ムース(へら鹿)のモーリスは、牛に出会います。「君は変なムースだね。」と言うモーリスに、牛は「私は牛よ。ムースじゃないわ！」と答えます。モーリスは「君は4本の足と1本のしっぽと、頭にツノがあるからムースだよ！」と言います。牛がどんなに説明しても「君はムースだ！」と言いはります。困った牛はそばにいた鹿にきいてみるようにモーリスに言います。



ところが、鹿は「牛ばかりでなくモーリスまでも鹿だ！」と答えます。そこで、「他の誰かにきいてみましょう。」と牛が言います。3頭が歩いて行くと馬に出会います。馬はいきなり、「こんにちは、馬さん達！頭に乘せているおかしい物はなんだい？」ときいてきました。「はあ〜。」と牛はため息をつき、「他の誰かにききましょう。でも、まず小川で水を飲みましょう。」と促します。

さて、この続きはどうなるでしょう？最後のオチがダジャレになっています。ややこしいけれど、面白いお話です。

月に2回ある図書室でのイベント、Happy Time!(えいごであそぼう)の時に、英語と日本語で説明しながら読んだ英語の絵本です。



本のおはなし

NO. 13
April 2018



海のやくそく

山下明生作 しまだ・しほ絵 佼成出版社

偶然、年老いたくじらの背中を新天地だと思って着地した飛行グモ。そこで、くじらは南の島まで飛行グモといっしょに長い旅を続けます。友情が芽生えたころ、無事に南の島に着きました。別れる時に飛行グモは「お礼はなにがいい？」とききます。軽い気持ちでくじらは「ハンモックと本」と答えます。

飛行グモは時空を越えてその約束を果たします。最後のシーンは感動的です。





本のおはなし

NO. 12
March 2018



ぜつぼうの濁点

原田宗典作 柚木沙弥郎絵 教育画劇

小説家、エッセイストである原田宗典氏が「ゆめうつ草紙」(幻冬舎文庫)に掲載した作品に、ゆのきさみろう柚木沙弥郎氏の絵を加え 絵本「ぜつぼうの濁点」ができました。



ふしぎなひらがなの国でのお話。

突然、この国にちょっとした椿事ちんじが生じました。南部のひなびた「や」行の町の何てことない道ばたにどういうわけか「、、」と濁点のみがぼつねんと置きざりにされていたのです。主たるべきひらがなもなしに濁点だけで居るなんてそんな読めもしない不手際はここ千年に一度もなかったことでした。

高学年向きの絵本です。絵もインパクトがあり、ひらがなだけでこんなに興味深い話が展開できるとは…。すこし難しいかもしれませんがすばらしい絵本です。題名もカッコイイ！



本のおはなし

NO. 11
February 2018

 どうぶつさいばんライオンのしごと 竹田津実作 あべ弘士絵

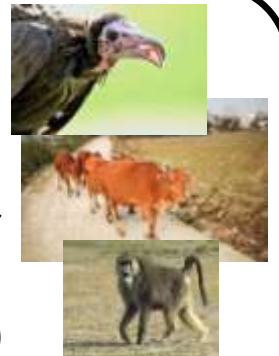


借成社

普段から用心深く、子どもおもいでやさしいヌーのおかあさんがライオンに殺され、食べられてしまいました。さあ、裁判が始まります。訴えたのはヌー、訴えられたのはライオン。

裁判長

ハイラックス



ヌーの弁護士:ぞう

証人:バッファロー

ヌーの友人

インパラ

年とったヌー

ライオンの弁護士:オオミギツネ

証人:ハゲワシ

マサイの牛

バブーン(ヒヒ)

モンゴル人の羊飼いの老人

それぞれの証人の話をきいていくうちに、次第にみんなの考えに変化が…。最後に、裁判長の判決を聞き、皆「いい裁判だった」と言いながら草原に帰って行きました。自然がライオンに与えた狩りという仕事の中に隠したもう一つの役目とは…。高学年向けの深い絵本です。



本のおはなし

NO. 10
January 2018



となりのたぬき

せなけいこ作・絵 すすき出版



**うさぎはいつもけんかをするたぬきがだいきらい！
なんとかしてたぬきをこぶだらけにしたい！おせんべ
にしたい！とおくへぶつとばしたい！**

それをきいていたおつきさまが、うさぎとあるやくそくをした。そのやくそくをまもれたら、うさぎのおもうと
おりにたぬきをやっつけてくれるという。さて、どんなやくそくをしたのかな？やくそくをまもったうさぎはどうするのかな？



本のおはなし

NO. 9
December 2017



クリスマス・キャロル

ディケンズ著

角川書店

集英社

岩波書店

杉田七重訳

木村由利子訳

脇明子訳



クリスマスの本と言えば、まず、イギリスの作家チャールズ・ディケンズのクリスマス・キャロルが頭に浮かびます。ディズニー映画にもなっているのでストーリーは分かる人もいるでしょう。

ケチで金儲けにしか興味のない冷酷なスクルージがクリスマスイブに、3人の幽霊によって自分の過去・現在・未来を見せられ、改心し優しい人に戻るお話です。12月にはぜひ読んでみたい本です。



本のおはなし

NO. 8
November 2017



おおかみだあ！

マセドリック・ラマディエ文
ヴァンサン・ブルジョ絵
たにかわ しゅんたろう訳

ポプラ社



おおかみが遠くから近づいてくる。
どんどん近づいて来る。
はやくページをめくっておいはらうんだ。
本をいそいで右にかたむけて！
もっとかたむけて！
さあ、どうやったらおおかみからにげられるのでしょうか。



本のおはなし

NO. 7
October 2017



おおきなかぼちゃ

エリカ・シルバーマン作 主婦の友社
S.D.シンドラー絵 おびかゆうこ訳



「おおきなかぶ」のかぼちゃ版です。かぶと違うのはハロウインの絵本なので、当然、登場人物がそれなりのなかなかの人気者ばかり。しかも、かぼちゃを引っ張る順番を紹介するのに、かぶ版とは逆で、うまいやり方を提案したコウモリから始まるのが心憎い演出。そして、最後にみんなでかぼちゃのパイを食べるところはハロウインの楽しさを感じられます。ハロウインにはぴったりの絵本です。



本のおはなし

NO. 6
September 2017



ちかみち

マイケル・グレイニエツ作・絵
ほそのあやこ訳

ポプラ社



クワガタでもなくカブトでもないふしぎな虫がちかみちを
行く。でも、一本橋で他の虫と鉢合わせ。下の川では、
するどい歯をむき出しにした魚が口を開けて待ち構えて
いる。そして2匹の激しいバトルが始まる。子ども達は盛
り上がる。どっちが勝つのか迫力満点。勝負の行方は？
インパクト満点の絵と単純なストーリーの楽しい絵本です。



本のおはなし

NO. 5

August 2017



シャ
CHATS ネコ大好き!



シアン
CHIENS イヌ大好き!

ジャン・キュヴァリエ博士著 グラフィック社



ネコ好きには
たまらない本

ネコの1日
都会のネコ
田舎のネコ
...



イヌ好きには
たまらない本

わんちゃん処方箋
名前は何にする?
ボクたちを飼う前に!
...



さわってみると
フワフワしていて
とてもいい手触り



題名はそれぞれ「ネコ」「イヌ」のフランス語です。ネコとイヌのさまざまなが書いてある本です。おしゃれで楽しいポップアップブック(しかけ本)をワクワク気分て全部読んだら、あなたはもう立派なイヌ・ネコ博士!





本のおはなし

NO. 4

August 2017



フィボナッチ

ジョセフ・ダグニーズ文 さえら書房

自然の中にかくれた数を見つけた人 ジョン・オブライエン絵 渋谷弘子訳



5/18 (木) の読み聞かせで6年生に読んでいただいた絵本です。イタリアのピサという町を知っていますか? 「ピサの斜塔」と聞けばすぐ分かると思います。その町に、12~13世紀に実在した偉大な数学者レオナルド・フィボナッチの像があるそうです。

天才とは普通の人とは考え方も行動も違うものですから、なかなか

か分かってもらえません。彼も子どもの頃は周囲の人達にばかにされていたそうです。彼の名前がついたフィボナッチ数列のことを知ると、松ぼっくりのかさやひまわりの種の並び方など、身近にあるフィボナッチ数が気になり、算数に興味がわくかもしれません。

フィボナッチ数列

1 1 2 3 5 8 13 21 34

↑ 3番目の数からは前の二つの数を合わせた数になります。





本のおはなし

NO. 3
July 2017

★ ガンバレ！！まけるな！！ナメクジくん

三輪一雄作・絵 偕成社



同じご先祖様を持つカタツムリとナメクジなのに、かたや人気者、かたや嫌われ者。「なぜ?」と思ったことはありませんか?

いいんです。どんなに辛い目にあおうとナメクジくんには壮大な野望が・・・?

この絵本を読むとナメクジに対する考え方がちょっと変わるかもしれません。





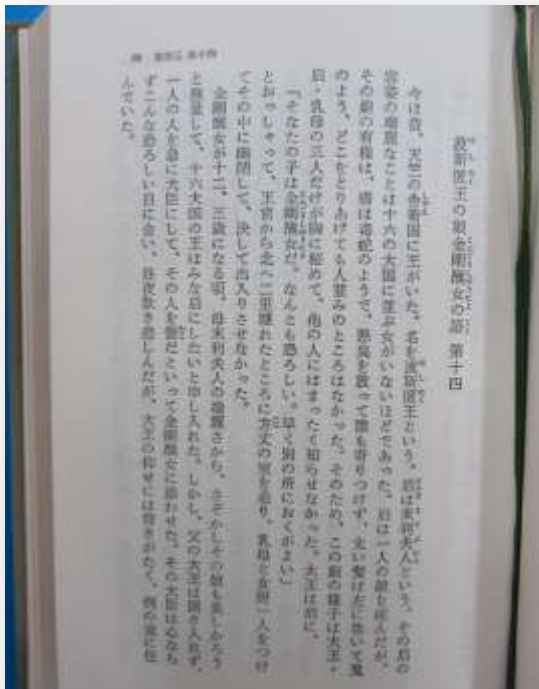
本のおはなし

NO. 2
June 2017

★ シャエの王女 榎佐知子文 赤羽末吉絵 偕成社

6/15(木)の読み聞かせて、6年生に読んでいただいた絵本です。

「インドや西域が天竺と呼ばれていた遠い昔のことです。」という書き出しで始まります。大魔神のように武勇に優れたシャエ国のハシノク大王と、天竺のすべての国々にもならぶ者がいないほど美しい後のマリ夫人との間に生まれた王女はあろうことか、膚は毒蛇のようなうろこにおおわれ、太い髪は逆立ち、二目と見られない顔をしていて、その上、血なまぐさいにおいが呼吸のたびに漂うのでした。話の内容も文章も絵も惹きつけられる美しい本です。「今昔物語集」(巻三の十四話)「ハシノク王の娘金剛醜女のこと」をヒントにした創作。本校にはありません。絶版のようです。公共図書館で借りられます。



★ 春のわかれ 榎佐知子文 赤羽末吉絵 偕成社



「今は昔、村上帝の御代のことでございます。」で始まります。姫君の婚礼道具である大切な硯を割ってしまった青年を気の毒に思い、代わりに罪をかぶった美しく心優しい若君。しかし、父君の怒りは思いのほか激しく、若君は家を追われ、失意の中で高熱を発しはかなく亡くなってしまふ。悲しいながらも美しい話です。

同じく「今昔物語集」(巻十九の九話)「小さき稚児を悼みて硯を割りし侍出家せること」をヒントにした創作。



本のおはなし

NO. 1

June2017



いもさいばん

きむらゆういち文 たじまゆきひこ絵 講談社

5/18 (木)と6/1 (木)の読み聞かせで、2年生と5年生に読んでいただいた絵本です。おじいさんが丹精込めて作ったおいもが盗まれた! 犯人を見つけたけれど・・・。



迫力のあるかわいい絵です。前半のおもしろさから、後半は思いがけず深いお話に。

